



ヤッホー

緑も深まり、しろかき後の田んぼからはシュレーゲルアオガエルの美声が聞こえてきます。心地よい5月の園庭で、子どもたちは色鮮やかな草花を摘んだり、珍しい昆虫や水辺の生き物を採集したりと、里山での豊かな出会いを楽しんでいます。梅雨入り後も雨の日の室内での生活を楽しんだり、年長などは時にはレインコートを着て雨の園庭を散策したりしながら、自然の美しさや不思議さ“センス オブ ワンダー”を感じられる場面を大切にしたいと思ひます。



雨の森を楽しむ

子どもの主体性と安全

先日、日本保育学会の大会で3つの大学の先生方やお茶の水女子大学付属いずみナーサリーの先生と共に「子どもの主体的なあそび、学び、安全」について発表してきました。園長からはYURIKAGOの里山を中心とした自然の中での教育や、子どもの主体的選択を重視した遊びと安全のバランスについて紹介をしました。

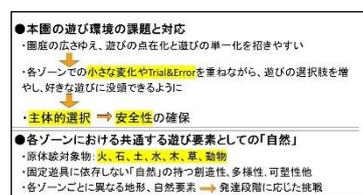
ご承知の通り、本園は広く自然豊かな園庭が特徴でもありますが、一般的に広い園庭・校庭の特徴として(小学校の校庭をイメージされるとわかるかと思いますが)遊びが各ゾーンで1つに決まってしまうたり、それぞれの遊び場が孤立してしまったりする傾向があります。そのため本園では保育者の見守りの下、園内の各ゾーンで複数の遊びが可能になるよう環境を構成し、その中から子どもが主体的に遊びを選び、没頭したり、何度も挑戦を繰り返したりすることができるようにしています。これによって「遊びを通した学びの質」や「自己肯定感」を高めることができると考えています

また、遊びに没頭するということは、その遊びに集中し、リスクのある遊びに挑戦する際にも真剣に向き合っているということであり、これが安全に遊ぶ上でとても重要です。ケガが起きやすい場面は、決して急斜面や難易度の高い遊具ということではなく、気持ちが安定していない時や、周りから急かされたり、慌てて行動したりする場面で見やすいものです。つまり、子どもが保育者に見守られながら、安心感をもって主体的に環境に向き合い、遊びや挑戦を通して充実感を得ている時に「子どもの主体性と安全性」のバランスが良い状態だと考えています。

しかし、これらのことは言葉でお伝えしようとしてもなかなか伝わるものではありません。ご理解いただくには実際に子どもたちの遊ぶ姿や保育の様子をご覧いただき、場合によっては子どもと一緒に遊び、感じていただくことが大切かと思ひます。学会発表では、一例として「鉄腕クラブ」の活動も紹介しました。鉄腕クラブは園の環境整備という大きな目的がありますが、実は「親子、家族で参加いただくことで、子どもたちがこの園庭でどのように遊び、挑戦し、安全と向き合っているかについて、「体験を通して保護者の方にもご理解いただく」という隠れた目的があります。もちろん全園児が参加する行事ではありませんが、ご参加いただいた方が園でのお子様の様子をご理解いただき、水紋のようにご理解が広がっていくことに意味があると考えています。

さて、6月7日は保育参観です。(うさぎ組は6月6日です。)当日は、全園児の保護者の皆様に子どもたちの園での生活、遊び、活動を存分にご覧いただくとともに、お子様と一緒に活動を楽しんでいただけましたら幸いです。子どもたちも皆様と過ごす時間を楽しみにしておりますので、どうぞご理解とご協力をお願い申し上げます。

※本園では、毎年様々な学会で研究発表やシンポジウムを行っています。本園の環境や教育は特徴的であるため、今回の発表のように、「どのようにして広く自然豊かな園庭における主体的な遊びを通した学びを実現させているのか、また安全を確保しているのか」などについて、大勢の方が興味を示してください。当日もたくさんのご質問をいただきましたが、YURIKAGOが行っている教育及び教育環境は、文部科学省、厚生労働省、子ども家庭庁が示す「最低基準」を意識したものではなく「最高基準」を目指しているものです。それは自然環境に限らず、人的・物的環境、そして教育カリキュラムについても同様です。一方で、井の中の蛙になり、教育内容が硬直化することが園の持続発展や質向上にとって最も危惧すべきことです。そのために、できるだけ毎年、様々な学会で発表し、大学教授や研究者、現場の先生方の率直なご意見を耳を傾け、「北風に晒される」ことが必要と考えています。



2ヶ月を経て...

うさぎ組さん、年少さんは幼稚園に慣れ、GW明けの「幼稚園よりお家がいい」という退行現象も経て生活面も徐々に安定し、遊びも広がりを見せています。これまで頑張ってきた反動が見られたり自我が出せるようになることで友達とぶつかることも増えますが、こうして友達や集団を少しずつ意識しながら人間関係を深め、社会性を育てていきます。この2ヶ月間の経験が自信となり、園生活を充実させていく礎になります。お子様の成長を認め、讃え、励ましていただきますようお願いいたします。



うさぎ組さん、ヤギ、カエル池、棚田、森、てっぺん広場など様々な場所で遊びが広がっています



年少さん、収穫、

森散策、

楽器遊び、

運動遊び



豆苗栽培

モルモットのモルちゃん制作

リトミック

厨房見学

年中さんは広いクラスでお友達も増え、制服登園となるなど、年少の頃とは異なる生活環境が「お兄さん、お姉さんになった！」という自信や自覚を促してくれます。触れなかった虫に触れるようになったり、登れなかったアスレチックや櫓に登れるようになったりと、「できること」が格段に増える年中さんにとって、1学期後半は遊びや諸活動に大きく挑戦していく大切な時期です。時には失敗や挫折を繰り返す場面もありますが、挑戦する姿勢を認め、見守っていただきますようお願いいたします。



板登りに挑戦！ 倒木も乗り越え相原中央公園へ

畑で栽培中の枝豆や年少から育ててきた麦のお世話



アサガオ栽培

タマネギを収穫してスケッチ

初めてのキーボード

思い思いのシャツ完成！

年長さんはこれまで積み上げてきた経験をもとに、新たな課題に取り組もうとする意欲が大きな成長を促します。この意欲を維持し、高め、成長につなげていくためには、日々の安定した生活習慣が大切です。ご家庭におかれましても、十分な睡眠、早寝早起き朝ご飯、挨拶、整理整頓、ハンカチ・ティッシュなど、年少さんから続けている基本的な生活習慣を崩さずに、就学前の最後の1年を過ごしていただきますようご協力をお願いいたします。



殿入中央公園へ



ヒノキのスケッチ



ミニトマトの栽培と観察画



オリジナル絵本でドングリ栽培を学び、東北の森復興にドングリ苗を送る。
 佐々木隊長の自然体験プログラム、ムササビや昆虫などを観察し生き物についての疑問にたくさん答えてくださいました！
 (10年目の取り組み)

年長 田起こし～水入れ～畦塗り・しろかき

年長さんは、剣スコップで棚田の土を掘り起こし、地下120mからの井戸水を入れ、黒土を足で踏み砕いてなめらかにし(しろかき)、畦に土を塗り(畦塗り)水が漏れないようにしました。泥遊びも楽しみながら棚田が蘇りました。また5/10に行われた鉄腕クラブでも、親子で田んぼ全面のしろかき、畦塗りを行い、みんなの力で美しい棚田が完成しました！



種もみまき、田起こし、水入れ、畦塗り、代かき、育った苗を運んで、いよいよ次は田植え！

“おカイコさん”を育てます!! 本年度も横浜のシルク博物館から頂いた500粒の卵が孵化し、小さなカイコの赤ちゃんが誕生！園庭の桑の葉を与えてお世話をし、糸をとり、作品を作ります！

自然 × ICT 子どもたちは毎日自然とふれ合い、発見し、観察し、図鑑で調べるなどして探求心や創造(想像)力を働かせながら多くを学んでいます。こうした活動はICTを活用することでさらに広がりを見せます。ムササビの巣箱内にカメラを設置しモニターで観察できるようにしているのも活用例ですね。そして現在、試験的に取り組んでいるのが、タブレットやスコープカメラを使った **かいこの卵を観察中** 探求活動です。子どもたちが見つけた昆虫や草花の写真を撮り、加工して折り紙や立体工作に繋がったり、スコープカメラで顕微鏡のように観察して生命の神秘を感じたり、生態について知るなど多方面での活用を楽しんでいます。自然とICTは相反するように思われますが、使い方次第で自然の魅力をより深く理解する道具として有効であると考えています。

